

ご利用時の注意点

これより先は、獣医療関係者・医療関係者を対象に、当院でのロボット手術研修に関する情報をご提供するものです。一般の方への情報提供を目的としたものではございませんので、ご了承ください。

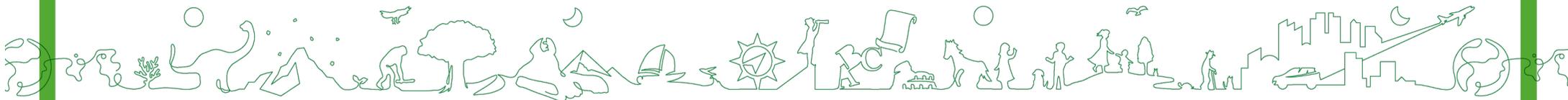
あなたは医療関係者ですか？

はい

いいえ

ロボット手術教育・トレーニング部門

Robotic Surgery Education & Training Division



JARVIS Tokyoでは、動物医療の未来を切り拓くべく、
世界的に珍しい※₁「ロボット手術教育・トレーニング部門」を有しています。

これまで、皮膚科・腫瘍科・脳神経外科など、臓器別・疾患別の専門性が進展する一方、
手術支援ロボットを軸とした横断的専門科は存在していませんでした。

我々は、どうぶつに対するロボット支援手術を行うことができる立場として、
この分野を「一つの学問領域・診療部門」として確立する責任があると考えています。

ロボット手術教育・トレーニング部門の使命

1. 診療 – ロボット支援手術を用いた低侵襲・高精度な外科治療の実践
2. 教育 – 獣医師・研修医に対する体系的なロボオペ教育・トレーニング
3. 研究 – 動物ロボ外科の安全性・有効性に関する臨床研究の推進
– 医科・工学との連携による次世代ロボオペ技術の開発

我々の誇り

*日本の獣医療史上、初めて※「ロボット手術教育・トレーニング部門」を
標榜

*世界に先駆けて「どうぶつにおけるロボット外科」を学問として提示

*臓器・疾患の枠を超えた、新しい外科の横断的プラットフォーム

結びに

JARVIS Tokyoのロボット手術教育・トレーニング部門は、
「日本発の先端技術で、どうぶつと人の未来を変える」ことを使命とします。

我々の取り組みは、単なる診療技術の導入にとどまらず、
獣医療・教育・研究を融合させた新たな時代の幕開けであることを、ここに宣言いたします。

部門長（田村 利勝）からのメッセージ



このたび、当院では新たに「ロボット手術教育・トレーニング部門」を設置いたしました。
当院は、どうぶつたちに安全で質の高い医療を提供することを目指しており、
その一環として、手術支援ロボットを活用した診療体制を整えています。

ロボットを用いた手術は、人の医療現場で長年培われてきた技術を参考にしており、
獣医療においても応用が期待されている分野です。
精密な操作が可能となることで、体への負担をできるだけ少なくし、
より良い治療につなげられる可能性があります。

当院では、これまでの臨床経験と最新の医療機器を組み合わせ、
一頭一頭に寄り添った診療を行ってまいります。
新しい取り組みには責任も伴いますが、その責任を重く受け止め、
獣医療の未来の実現のため心からの誇りと情熱を注いでまいります。

スタッフ一同研鑽を重ねてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

ロボット手術教育・トレーニング部門長 田村 利勝



ロボオペ術者研修（合計10～20時間）目安



ロボット手術教育・トレーニング部門では研修制度を設けており、以下の項目を実施いただきます。

セッション	内容	時間
1. オリエンテーション	目的・留意点	1.0h
2. 機能説明		1.0h
3. コンソール操作①	エンドスコープの操作方法	1.5h
4. コンソール操作②	インスツルメントの操作方法	1.5h
5. コンソール操作③	ロールクラッチの操作方法	1.0h
6. コンソール操作④	糸通しタスク	1.0h
7. コンソール操作⑤	縫合タスク	1.0h
8. コンソール操作⑥	緊急停止時の対応について	1.0h
9. まとめ・評価	実技評価・FB	1.0h
合計		10.0h



研修修了者からのメッセージ



藤田 淳

田村先生、プロクターの方々の丁寧な指導のおかげで、所定の研修・試験を修了し、ロボット支援手術の認定を受けました。
3D視覚と力覚フィードバックにより、従来とは異なる操作感を得られ、自分の目と手が拡張されるように感じました。また、従来以上にチーム全体で支え合う医療であることを実感しました。
執刀医だけでなく、助手の獣医師や看護師が連携し、安全の確保に努める手術室には、強い一体感があります。
私たちはいま、獣医療におけるロボット支援手術の新しいステージに立っています。腹腔鏡とは異なる独自の特性を持ち、未来志向の集中と団結こそが発展の推進力です。
One for all. All for one.
ご関心をお持ちの方は、ぜひ共に議論し、新しい可能性を探っていきましょう。



金井 詠一

このたび「JARVISロボット支援手術認定医※1」として研修を修了し、資格を取得いたしました。小さな動物に対してロボット支援手術を実際に行える日が来るとは想像しておらず、その扉を開いてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ロボット支援手術は、従来の術式とは異なる特長をもち新しい治療の選択肢を動物に届けられる、世界的にも始まったばかりで注目を集めている領域です。
日本の優れた獣医療と高度な工業技術、そして挑戦を理解し支えてくださる方々の存在によって、私たちはこの分野で、世界の発展に貢献できる可能性があります。
さらに、ロボット支援手術は外科医のみならず、麻酔科医、愛玩動物看護師、技術スタッフを含む全ての力を結集してこそ成り立つ、まさに「チーム獣医療」です。
獣医療従事者は、常に動物とご家族にとっての最善を追求し、新たな挑戦に臆することなく歩みを進める責任を果たしていく立場にあります。
「小さな命に向き合う、新しい挑戦」を胸に、獣医療の未来を一緒に切り拓いていきましょう。

※1 当院独自の研修プログラムによる認定



岩田 泰介

指導医・プロクターの先生方をはじめ、多くのご指導を賜り、無事に手術支援ロボットの術者研修を修了し、認定医資格を取得することができました。ロボット手術に関する技術は単なる“低侵襲手術”にとどまらず、拡大された鮮明な視野、腹腔鏡手術で課題となる「鉗子の可動域制限や手ぶれ」の解消といった、大きな利点を備えています。今後、AIやインターネットとの連携が進むことで、より安全で精密な手術の提供につながる可能性が高いと考えています。私たちは今、獣医療の新しい世界を切り拓く大きな挑戦の真っ只中にいます。この革新に少しでもご関心をお持ちの方、共に学び、切磋琢磨しながら未来を私たち自身の手で創り上げていければ幸いです。動物たちの未来のために、そしてそのご家族のために——JARVIS Tokyoから、世界に誇り得る獣医外科を目指して発信してまいります。



江原 郁也

ロボット支援手術の術者研修を経て、「JARVISロボット支援手術認定医」の資格を取得いたしました。この革新的な技術は、従来の内視鏡外科手技や開放手術と比較して、より低侵襲化・精緻化の可能性を広げる新しい選択肢となり得ます。私たち認定医は、その可能性を最大限に探求し、動物医療の未来に資する安全で効果的な治療の実現を目指して研鑽を重ねる使命を担っています。先進的な動物医療は決して一人では成り立ちません。内科、外科、麻酔、そして動物看護師に加え、法務・確率統計など、多職種の専門性が尊重され、協力し合うチームによってこそ成果を高めることができます。異なる経験や立場を持つ私たちが、互いを尊重し自由な意見交換を行うことで、より良い獣医療を築いていく環境が整います。失敗を恐れず挑戦を続け、謙虚さを忘れず、継続的な学習と技術の研鑽を続けながら、愛する動物とそのご家族のために最善を尽くす姿勢を大切にしていきたいと思います。次世代を担う獣医師・動物看護師の皆様の無限の可能性と輝かしい未来を、心から応援しています。